

びろっぱ

Vol. 451 2024. 2

救う。
命をつなぐ。

CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP

医療情報

医療機能評価受審

表紙の写真

救命救急センター
近森病院

救命救急センター
近森病院



日本消化器病学会四国支部
第44回教育講演会

近森リハビリテーション病院
介助犬キャラバン受け入れ
病理診断科円山部長退職

ター
院

医療機能評価 受審

2023年
主たる機能 …… 4月24・25日
高度・専門機能 …… 4月26日

主たる機能

区分
機能種別版
評価項目
3rdG:Ver.2.0



高度・専門機能 (救急・災害)

区分
高度・専門機能:
救急医療・
災害時の医療
Ver.1.0



6度目の更新認定も 高い評価で

近森病院 院長 川井 和哉 かわい かずや



コロナ禍で延期を余儀なくされていた医療機能評価を受審し、高い評価で6度目の更新認定をいただきました。近森病院は、1997年に全国3番目という早さで認定をいただき、それから25年間更新を続けています。わたし個人にとっては院長として初めての審査ということもあり、少しプレッシャーを感じる中での受審でした。

マインドのチェンジ

改めて院内を見渡すと、日常診療を回すために各現場で工夫を凝らし、細やかな配慮で業務にあたってくれていることがよく分かりました。その一方で、医療者の視点で正しい業務も、患者さんの視点ではどうなのか?と考えさせられることもありました。受審は多くの気づきが得られる機会となり、第三者による評価の重要性を実感しました。

準備を進める中で、各現場から課題の抽出と改善事項の共有がなされると翌日から現場がバチッと切り替わります。このスピード感や切り替えの早さは、さすが近森だとつくづく感じました。

また、受審後も「医療機能評価の視点では改善が求められる」といった前向きな意見を出し合う委員会などもあり、職員の意識改革が進み有意義な活動を続けてくれていることを本当に嬉しく思っています。

変革を続けて

医療を取り巻く環境は厳しさを増しており、医師の働き方改革など急激な変容が求められています。当院は、今までも時代の変化やニーズに応じた変革を続けてきました。これからも職員が働きやすく、患者さんにとって最善で安心・安全な医療を提供できる病院を追求していきます。

2013年県初の受審から 3度目の更新認定

近森病院 救命救急センター
センター長

根岸 正敏 ねぎし まさとし



当院では2011年に救命救急センターに指定されたのを契機に、2013年に高知県内で初めて、医療機能評価の中で高度・専門機能である(救急医療・災害時の医療)の認定を受け、このたび2023年10月4日付けで3度目の更新認定をいただきました。

修正、改善の積み上げ

医療機能評価の中でも、高度・専門の病院機能を複数のサーベイヤーに客観的に評価していただくものであり、

1. 地域の救急医療を支える効果的な仕組み
2. 救急患者への適切な対応
3. 救急部門の質改善に向けた取り組み
4. 災害時の適切な対応のための体制 など、

4つの大項目、24の小項目について厳正、詳細な審査が行われ、全ての項目で「秀でている」、「適切に行われている」との高い評価をいただきました。第三者による客観的な評価は自身では気づかぬ問題点などを確認することができ、このような評価を定期的に受けることで、自施設のさらなる修正、改善を進めるきっかけになります。

これからも歩みは止めず

今回の評価での良い点はさらに伸ばし、指摘された改善点は速やかに改善し、常に安心・安全な、そして何より全国レベルに劣らない最善の救急医療を提供し地域医療を守る最後の砦としてさらに精進してまいります。

学会開催

日本消化器病学会四国支部
第44回 教育講演会

2023年11月23日／高知市文化プラザかるぽーと

医学は日進月歩、常に学習を

会長／
近森病院 消化器内科 部長
青野 礼 あおの れい



去る2023年11月23日に日本消化器病学会四国支部第44回教育講演会を会長として主催させていただきました。

この講演会は消化器病診療を専門とする優れた医師の養成と、消化器病医療の向上を図ることを目的として開催されています。消化器病学会専門医申請や更新には、出席が必須の条件となっています。

今回、四国を中心に全国にご活躍されている先生方に消化器診療の最前線の話をお話いただきました。当院からも、消化器内科より岡田主任部長、大川科長、消化器外科より塚田主任部長にご講演を賜りました。また、ランチョンセミナーには北里大学から小林拓先生をお招きし、炎症性腸疾患につき最先端のご講演をいただきました。

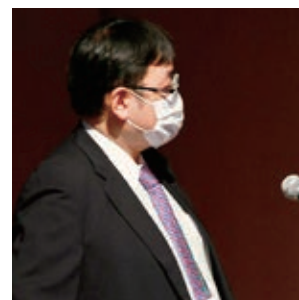
当日は、80名を超える県内外の先生方にご参加いただき、盛会のうちに終了しました。医学は日進月歩と言いますが、消化器病の分野においても然りで、何年たっても常に学習するという姿勢は忘れてはならないのだと痛感いたしました。

最後になりましたが、主催にあたり事務局を引き受けていただきました近森病院秘書課、パンフレット作成にあたってくださった企画課の方に深謝いたします。

テーマ『消化器疾患診療の Up To Date』

プログラム

講演1	『胆膵疾患の内視鏡治療』	大川科長
講演2	『どうする、急性腹症 ～外科に相談した方がいいのかな?～』	塚田主任部長
ランチョン セミナー	『IBD治療のup-to-date』 北里大学北里研究所病院IBDセンター センター長 小林 拓先生	
講演3	『肝臓治療 ～全身薬物療法時代を中心に～』	愛媛県立中央病院消化器内科 主任部長 平岡 淳先生
講演4	『消化器がん薬物療法 Up To Date』	高知大学医学部腫瘍内科学 教授 佐竹 悠良先生
講演5	『EMR.ESDで知っておくべき事』	岡田主任部長



▲ 左上／ランチョンセミナー講師・北里大学 北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センター長 消化器内科部長 小林拓先生、右上／岡田主任部長、左下／大川科長、右下／塚田主任部長

近森病院

許可病床数が変更
になりました

2024年1月29日より、近森病院の許可病床数が489床（急性期一般429床、精神60床）となりました。北館2階病棟跡に、「化学療法センター」を移設・拡張（外来ベッド20床）し、同年4月より外来センター6階点滴センター跡には「乳癌センター」をオープンさせる予定です。

2024年1月29日～

	変更前	変更後
一般病床	452床	429床
精神病床	60床	60床
合計	512床	489床

論文掲載

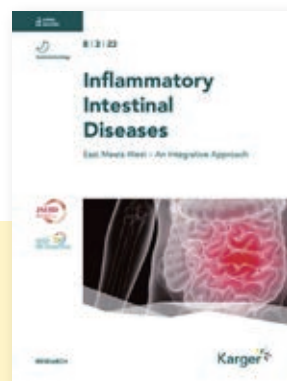
国内留学での成果を論文で発表しました



近森病院 消化器内科 前田 真佐 まえだ まさ

論文名 Milan Ultrasound Criteria Predict Relapse of Ulcerative Colitis in Remission

掲載誌 Inflammatory Intestinal Diseases. 2023 Volume 8, Issue 3 Jul 26;8(3):95-104.



← 閲覧はこちらから

北里大学北里研究所病院 炎症性腸疾患先進治療センターで

この度、国内留学する機会を頂き、2021年10月から2023年3月まで炎症性腸疾患について勉強してまいりました。北里研究所病院では数多く臨床研究がされており、留学中には私も臨床研究に携わる機会を頂きました。今回、その臨床研究に関する論文が無事アクセプトされましたのでご報告させていただきます。

炎症性腸疾患の寛解治療における 新しいモニタリングツール

炎症性腸疾患は再燃と寛解を繰り返す腸管の炎症性疾患です。寛解導入治療で炎症を抑え込み、寛解維持治療で炎症のない状態をできるだけ保つことが治療戦略としてあげられます。そのため、寛解導入・維持ともに疾患活動性のモニタリングが非常に重要です。数々のモニタリング方法がありますが、その中でも疾患活動性の評価のゴールドスタンダードは内視鏡です。しかし、内視鏡は侵襲度が高く頻回のモニタリングは難しく、近年それに代わるツールとして腸管エコー

が注目されています。

腸管エコーは有害事象のリスクが極めて低く、繰り返し実施可能であり、リアルタイムで腸管の現状を把握可能です。エコーでは腸管壁の厚さ、腸管内血流の有無などを確認し、腸管に活動性があるかを評価しています。

腸管壁の厚さを血流の有無を組み合わせ 確認することで、再燃予測が可能

今回の論文では、寛解期の潰瘍性大腸炎において、腸管エコーを用いて再燃予測が可能かどうかを議論しています。結果、腸管壁の厚さを血流の有無を組み合わせ確認することで、再燃予測が可能との結果となりました。この結果をもとに、今後の潰瘍性大腸炎患者さんの診療に少しでも役立てられればと思っています。

最後に、ご指導いただきました北里研究所病院の小林拓先生、佐上晋太郎先生をはじめ助言いただいた先生方、留学という貴重な機会をくださった近森病院消化器内科の先生方に心より御礼申し上げます。

学会受賞

第93回 日本感染症学会西日本地方会学術集会
第71回 日本化学療法学会西日本支部総会
西日本合同学会
初期研修医セッション5 **優秀発表賞 受賞**

演題 Parvimonas micraが検出された急性膿胸症例の検討

石田先生の誕生日に

初期研修医 2年目 城 可方
じょう かほ

2022年は「Parvimonas micraによる膿胸の3例」という題で発表し、2023年は近森における4年間の全膿胸症例からこの菌について発表させていただきました。

2年連続学術集会での発表という貴重な経験をさせていただいただけでなく、今回は賞までいただきました。ご指導いただいた石田先生、皆様本当にありがとうございました。

大学・公的機関以外の受賞が今年は当院だけだったことに加えて、その日は石田先生の誕生日(※)だったので、嬉しかったです！

※11月11日、ポッキー&プリッツの日です(^^)/



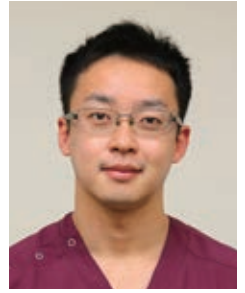
左端：石田部長

学会発表

国際学会での発表

2023年11月16～19日／シンガポール

近森病院 呼吸器内科 三枝 寛理 さえぐさ ひろよし



学会名 APSR 2023 The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Respirology

演題 A case of pulmonary nodule caused by Cladosporium species in an adult with diabetes mellitus successfully treated by surgery

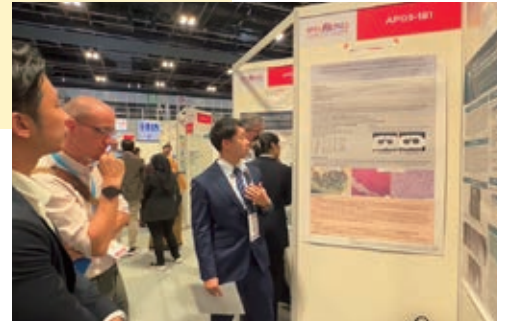
2023年11月にシンガポールで開催された国際学会に参加しました。学会発表はこれまで国内のみであったため、参加前は想像が及ばない状態でした。

現地で間質性肺炎に関連する肺高血圧症のマネジメントに関する討論や、他の参加者のポスター発表などを聴講しました。呼吸器の分野における様々なテーマに沿った最新の知見や、関心がもたれているトピックに触れることができ、学びの多い機会となりました。

私は感染症のセッションにおいて、糸状菌の一つであるCladosporium speciesによる肺の感染症に関するポスター発表を行いました。同菌による肺の感染症は稀ですが、起原因菌となり得ることや、肺癌のmimicになり得ること、病原診断の重要性などを論点として発表しました。英語での発表や質疑応答は初めてであり、貴重な機会となりました。

今回の国際学会に参加することで広い視野を持つことができたと感じております。今後の自身の診療や後輩への指導に活かしていきたいと思います。

共同演者として同行した呼吸器内科 中岡部長と。▶

指導医
コメント

近森病院
呼吸器内科 部長
中岡 大士 なかおか ひろし



APSRは毎年アジア太平洋圏の主要都市で開催されますが、参加者の多くは英語を母国語としないため、白人主義に挑む感覚が少なく、多国籍多文化な環境で丁寧な発表できる一面があります。

三枝先生は自身が得意とする感染症をテーマに、堂々たる発表をおこない質疑応答にも十分に対応ができていました。発表はもちろんシンガポールの見どころや多様な食文化体験も怠らないようサポートしてきました！当科では今後も国際学会活動も積極的に取り組んでまいります。

資格取得

脳神経外科専門医

これまでのご恩に報いるように

近森病院 脳神経外科 松岡 溪太 まつおか けいた



この度脳神経外科専門医試験に合格し、無事脳神経外科専門医を取得することができました。

近森病院での2年間の経験は、私にとって貴重なものとなりました。当初は救急患者さんの多さに戸惑いもありましたが、その環境で多くのことを学ばせていただきました。患者さんの診療だけでなく、指導医や病棟スタッフの方々との連携やコミュニケーション

の重要性も理解することができました。また、緊急の状況下での対応力や冷静さも身につきました。

これらの経験が私の専門医試験の合格に大きく影響したと感じています。これからも患者さんに最高の医療を提供できるよう、より一層努力していきたいと考えています。さらに、新たな知識と技術を身につけるためにサブスペシャリティの取得も目指していきます。

DMAT 高知空港航空機事故対応総合訓練

2023年11月16日



近森病院
救命救急センター(ER) 看護師
安田 幸平 やすだ こうへい



最善の対応のために

2023年11月16日に「高知空港航空機事故対応総合訓練」へ近森DMATとして参加してきました。滑走路での事故火災の想定で、救急、消防、各医療機関DMATの連携を図るための訓練となっています。

近森病院は赤エリア(重症エリア)の担当をすることになりました。運び込まれてくる患者の2次トリアージ、広域搬送のための安定化処置、搬送トリアージを行いました。次々と患者が運び込まれてきたため、ややパニックになっていましたが他の隊員との協力でなんとか対応することができました。

災害訓練は仮想の設定で、実際に起きていることではありません。しかしその仮想が現実となったときに最善最良の対応が行えるように訓練をする必要があります。色々な訓練に参加し、対応力の強化に努めたいと思っています。



◀ 左から、井上救急救命士、
井原医師、市川救急救命士、
岩戸看護師、筆者



1月1日 能登半島地震に際して ~近森病院の記録~

※後日、ひろっぱで活動報告を
予定しています。

お亡くなりになられた方々へ哀悼の意をさげるとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

1月5日

石川県七尾市の恵寿総合病院(近森病院も参加するVHJ機構の仲間)からの支援要請を受け、約3,400食の備蓄食を発送した。また同院の行うクラウドファンディングにも参加。



院内3か所に、被災地支援の募金箱を設置。

1月11日

厚生労働省DMAT事務局および高知県からDMAT派遣要請を受け、近森病院DMAT1班(救急科医師1名、看護師2名、事務2名)が発発、17日まで活動し18日に帰院した。



出張

第33回

2023年11月17・18日／沖縄県

VHJ職員交流研修会

過去の成功モデルに
とらわれない
新たな取り組みを

近森病院 地域医療連携センター 医事課
筒井 大知 つつい だいち



沖縄県の友愛医療センターにて

VHJ研究会とは、地域医療の中核を担う全国の民間病院が集まり発足した研究会です。近森理事長はじめ10名で参加しました。

今回は沖縄県の友愛医療センターが主管病院となり『ゆいまーる×創造～持続可能な地域発展に向けて～』というテーマで開催されました。

ゆいまーるとは沖縄の人々の心に深く浸透している「相互扶助」の精神のことで、新たな「創造」する力と合わせて不確実な時代における持続可能な医療体制を、どう構築していくかについて考える会となりました。

若手経営者の革新的な取り組みに感銘を受ける

1日目の沖縄科学技術大学院大学(OIST)の基調講演からはじまり、30周年記念シンポジウム、懇親会、2日目は分科会、友愛医療センターの見学と盛りだくさんでした。特に記念シンポジウムの『若手経営者が語る病院経営、VHJの未来』では、次世代の経営者が登壇され経営戦略やマーケティング、職員確保のための福利厚生充実など革新的な取り組みについて発表され、とても感銘を受けました。

分科会 地域医療連携 ～医療DX～

私が参加した地域医療連携の分科会では『医療DX(医療デジタルトランスフォーメーションの略)』をテーマに、WEB予約の導入、医療機関間の情報開示システムによるシームレスな転院調整の効率化、データ分析をもとに全診療科で行う訪問活動など各病院での取り組みが発表されました。その後のグループワークでは前方連携、後方連携、退院支援に関してそれぞれの問題点や改善案について、白熱した意見交換が行われました。

泡盛の様に刺激的な2日間

ここ数年で急激な進歩を遂げている医療DX。当院でもWEB予約システムや地域医療連携システムの導入など積極的に取り組んでいますが、より良い方向に新たなチャレンジをするマインドが重要だと感じました。

過密なスケジュールで憧れのかりゆしに袖を通すことは叶いませんでしたが、直接対面で交流できてとても刺激を受け、学びの多かった2日間でした。ここで得た学びを高知県の地域連携に少しでも貢献出来るように結びつけていきたいと思っています。

また、推薦してくださった塚田先生、出張の手配など準備してくださった企画課の皆さんに感謝いたします。



分科会のグループワークにて、議題についての課題点を付箋に書き出して情報をまとめた。



感染管理やプライバシーの確保のため、医療行為をする場所(左)とお見舞いの方が入れる場所や動線(右)を分離している集中病棟。

近森リハ病院 介助犬キャラバンがやってきた!

2023年12月21日

近森リハビリテーション病院
リハビリテーション部 部長

高芝 潤 たかしば じゅん



介助犬ってご存じですか。

介助犬は肢体不自由者の手足となり、日常生活における動作の補助をします。さらに、介助犬と暮らすことによって、「一人で外出することの不安が軽減された」、「家族が安心して外出できるようになった」などの2次的効果もあり、介助犬を通して社会とのつながりがより深くなることが期待できます。(介助犬協会HPより)

この度、「リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023」での繋がりから、介助犬キャラバンの一環で介助犬のファンタとピトに当院へ来ていただきました。「ものを拾う」「冷蔵庫のものを取る」など介助犬の器用なデモンストレーションに驚きです。まだまだ社会的な認知が乏しく、病院や医療関係の施設からその理解を広げる必要があります。少子化と老々介護で苦しむ現代社会に新たな光明になればと思います。



指示を受けて、器用に冷蔵庫からペットボトルを取ることもできる。



社会福祉法人日本介助犬協会の高柳友子先生より、実際に介助犬と暮らす生活や注意点をお話しいただいた。



同日、高知ハビリテリングセンターも隣の高知県立障害者スポーツセンター体育館を借りて、介助犬キャラバンを受け入れた。



シリーズ
イメージ
キャラクター
モリンちゃん

すまいる♥ナース通信 #認定看護師

心不全の再発予防を 外来で支援しています



高血圧や不整脈、心筋梗塞、弁膜症などが原因で心臓が十分に動かなくなって現れる症状や状態を「心不全」と呼びます。心不全は『心臓が悪いために、息切れやむくみが起こり、だんだん悪くなり、生命を縮める』と定義されています。

「心不全」は治療で一旦良くなっても、その後の管理が適切でなければ再び悪くなります。そのため、「何をどう管理すれば良いのか知りたい」「具体的な方法を教えてもらいたい」という方も少なくありません。実際、看護外来には、「どんなものを食べれば良い?」「どれくらい水分を摂っても良い?」などの質問が寄せられます。

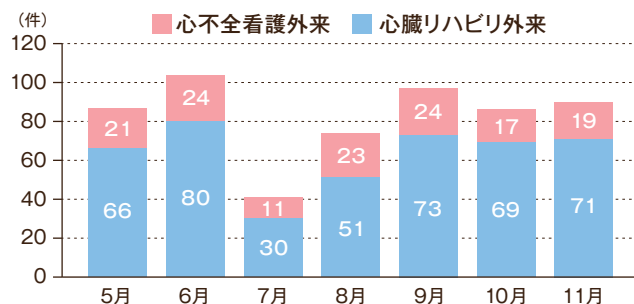
それぞれの「どうすれば良い?」に、心不全の病状を踏まえて一緒に考えます。気軽に相談してください。

近森病院 本館5階C病棟 主任
心不全看護認定看護師

久家 由美 くげ ゆみ



外来で介入した件数 (2023年)



▲ 心不全看護外来だけでなく、心臓リハビリ外来でも心不全予防管理を行っている。7月は新型コロナウイルス感染症の影響で、外来数が減少している。

ファミリー高知より



高知ハビリテーリングセンター 2023 秋祭り

2023年11月3日

晴天のもと、秋祭りが県立障害者スポーツセンターと高知ハビリテーリングセンターで4年ぶりに通常開催されました。

約600人が来場くださり、ドローン体験コーナーや様々な屋台では行列ができるほどの盛況ぶり。舞台ではキッズダンスやゲーム大会など、楽しく笑顔があふれた1日を過ごすことができました。



同日、「内ノ谷天満宮の神事」のお手伝いも!

毎年恒例の「内ノ谷天満宮の神事」のお手伝いに参加。今年も天狗と獅子となり、行列に先立って道をはらい、先導する役割を担ってきました。



しごと・生活サポートセンター ウェーブ

第4回 ウェーブフェスティバル

2023年12月16日

※毎年文化祭と呼んでおりましたが、今回からウェーブフェスティバルと名称を変更しました。

今回のテーマは『ウェーブアイランドでTogetherしようぜ』。ウェーブの建物全体を島、各ブースを村とみ立てて開催しました。

「ほっこり村」ではおでんとおにぎり、「なにがでるかな村」では釣りゲームやサイコロゲーム、「運だめし村」では福引きなど、楽しめるブースが満載!利用者や職員がフェスティバル当日まで何回も練習してきたハンドベル演奏や、マツケンサンバ演奏は笑いあり感動ありで大好評でした。

また、今回は地域から2つの放課後等デイサービス事業所の皆様にも参加していただき、バザーの企画から準備や販売、素敵なダンス披露など、前回以上に参加者全員が楽しくTogetherできたフェスティバルとなりました。



募集

近森病院 看護師特定行為研修 受講生募集

修了生、
続々活躍中！
あなたの参加を
お待ちしております。

願書受付／2024年3月1日(金)～3月19日(火) 17:00必着



No.	コース名
I	栄養コース
II	創傷コース
III	外科系基本コース ※1
IV	麻酔コース ※2
V	集中治療コース ※3
VI	救急コース ※4
VII	選択コース
	末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理(PICC)関連
	呼吸器(長期呼吸療法に係るもの)関連
	胸腔ドレーン管理関連
	腹腔ドレーン管理関連

問い合わせ先

社会医療法人近森会 近森病院
看護師特定行為研修事務局
TEL／088-822-5231
(平日8:30～17:00)

※1、※2、※3、※4「保健師助産師看護師法第37条の2第2項第1号に規定する特定行為及び同項第4号に規定する特定行為研修に関する省令の施行等について」に示される「外科系基本領域パッケージ研修」、「術中麻酔管理領域パッケージ研修」、「救急領域パッケージ研修」を指す。但し、※3については「集中治療領域パッケージ研修」に区分別科目「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」を加えたオリジナルのコースとしている。



さらに詳しく➡

第1回 ソフトバレーボール大会 開催!

2023年12月26日／サンピアセリーズ

● 優勝チーム: エレファント ● 参加者数: 約120名(全20チーム)



以前は「バレーボール大会」でしたが、コロナ禍を経て「ソフトバレーボール大会」へと生まれ変わりました。

優勝は画像診断部、ファミリー、近森オルソリハ病院の合同チーム「エレファント」! おめでとう!

外来センター

紙カルテ運用の廃止に向けて

外来センターでは、電子カルテと紙カルテを併用していましたが、紙カルテ廃止に向けて、1月から診察時に紙カルテを使用する運用を終了しました。

今後タイムスタンプの導入を行い、紙カルテ廃止を段階的に進めていく予定です。



▲ 以前は、前日にカルテを棚から集め、各診療科へ届けていた。

手足のスタンプで
作ったよ!

保育室
「そると」の
応援ポスター



がん患者さんの 抗がん剤治療をサポートする 漢方薬〈其の1〉

今月より
連載スタート

近森病院 糖尿病・内分泌内科 部長 浅羽 宏一 あさば こういち



大黃甘草湯（だいおうかんぞうとう）

便秘症が免疫力の低下や湿疹を引き起こす

便秘によって増加する悪玉菌が作り出す有害物質や、食品に含まれている有害物質が吸収され、免疫力の低下や湿疹などの原因となります。

免疫力の低下は治療の妨げになるので、がん患者さんにとって好ましくありません。ただ大便が出ていないだけと軽く考えずに治療しましょう。

「大黃甘草湯」はお腹が痛くなりにくい処方

「大黃」は大腸を刺激して排便を促す生薬（葉草を簡単に加工したもの）です。大黃の主要成分はセンノシドです。西洋薬の便秘薬であるセンノシドやプルゼニドは、この成分を下剤として用いています。

大黃甘草湯の良いところは、「大黃」が大腸を刺激しすぎてお腹が痛くならないように、「甘草」というお腹の痛みをとる生薬が配合されているため、お腹が痛くなりにくい点です。

センノシドやプルゼニドは長く服用しているとだんだん効かなく

なり、量が2錠、4錠と増えていき、お腹が痛くなりますが、大黃甘草湯はそれがありません。また、大黃甘草湯は炎症を鎮める作用や血流を改善させる作用があり、単なる下剤ではありませんので、大便やおならが臭う（大腸に炎症がある証）人にはお勧めします。

大黃甘草湯の薬能

◆ 大黃

- ① 大腸を刺激して排便を促す
- ② 炎症を抑える
- ③ 血流を改善させる

◆ 甘草

- ① 刺激により生じた大腸の痛みを緩和する
- ② 炎症を抑える



栄養で支える がん治療

近森病院 臨床栄養部



近森病院 臨床栄養部
管理栄養士

田部 大樹 たべ だいき

がん治療と炭水化物（糖質）

これまでたんぱく質についてお伝えしてきましたが、今回は炭水化物（糖質）についてです。

糖質は控えた方が良くとするインターネット広告や雑誌、書籍などを目にする機会ががん患者さんだけでなく、一般の方々も多いのではないのでしょうか？

確かに乳がん患者さんでは低糖質食を摂取している患者さんの方が生存率が良いと報告されました。一方で、極端な糖質制限食（1日の摂取エネルギー量のうち糖質が40%未満）ではかえって生存率が低下しました。糖質制限を意識すると、総エネルギー量が不足する可能性が懸念されます。米国腫瘍学会のガイドラインにおいても、糖質制限は十分なエビデンスがないと記されています。

がん患者さんは最低でも1日の摂取エネルギーの50%以上の糖質量が必要です。主食以外にも糖質は含まれますので、お米を1回の食事でお茶碗1杯（150g）程度は摂ることをお勧めします。もし、この量が多いと感じるような方は糖質制限をせず、食事量を落とさないことを優先すると良いと思われます。

1回の食事で
お茶碗1杯（150g）を
摂ることをお勧め！



歳時記

看護学生の成人式

1月7日、高知市にて成人式が行われました。普段とはまた違い、見違えるスーツ&着物姿で成人の日を迎えられました。本当におめでとうございます。



2年生
田村 汰仁（たむら たいと）

2年生
小野 華奈（おののかな）

熱烈応援 昇格人事

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

今出来る最善を一生懸命に

画像診断部 診療放射線技師 副技師長
田村 淳也 たむら じゅんや

ここに至るまで、お世話になった諸先輩方、いつも支えてくれた同僚、頼もしい後輩たちに感謝いたします。皆のサポート、そしてこの辞令を受けて、これからは自分の役割を肝に銘じ有言実行し、新しく自分たちでつくり上げる未来へ繋げていく所存です。

いいね!と言える病院づくりに貢献できるように、一生懸命にがんばりますので、どうか宜しくお願いいたします。



更なる画像診断部飛躍のために

画像診断部 診療放射線技師 副技師長
門脇 圭治 かどわき けいじ

診療放射線技師となって近森病院に就職し、当時の山本典判技師長に技師としての基本を叩き込まれ、仕事を覚え、業務をこなして行く過程で、様々な職種(Dr、Ns、事務方 etc)の方々から刺激をもらいながら、救急病院としての放射線技師の在り方を自分なりにやってきたように思います。

後輩にはとても優れた技能を持つ人材が多数いますので、自分の学んだ事(チーム医療での役割)を伝えつつ、後輩たちが力を発揮できる組織作りをしたいと思っています。

これからも画像診断部を宜しくお願いします。



ハッスル研修医

出会いに感謝して 初期研修医 1年目 松田 莉奈 まつた りな

高知県生まれ、高知県育ちで、医師人生の一步目をこの近森病院でスタートしました。長かった学生生活が終わり、社会人1年生となりました。

早いもので10ヶ月が経ち、最初は業務に慣れることに必死でしたが、少しずつ環境にも慣れてきました。指導医の先生方、コメディカルの方々にご指導いただきながら、人との繋がりに恵まれ、時には悔やんだり落ち込むこともありますが、充実した研修医生活を送らせてもらっています。入院患者さんだけでなく、外来や救急の患者さん、ご家族との一つ一つの出会いを大事にしながら、高知の医療に貢献できるよう邁進していきたいと思います。

2年間という短い研修医生活を有意義にできるよう、気を引き締めて頑張りますので、指導医の先生方、コメディカルの方々、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



職員募集中!

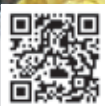
募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 臨床検査技師
- ソーシャルワーカー
- 事務



3,000と
誇れる
仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。



ALL CHIKAMORI

近森就職セミナー 春

2024 3/2 (土)

第1部 10:00~12:00 (受付 9:30~)

第2部 13:00~15:00 (受付12:30~)

午前と午後の2部制です。
どちらか好きな時間帯でお申込みください。

会場 近森病院 管理棟3F

お申込み方法・イベント詳細は特設ページを
ご確認ください。検索してご応募ください。

近森 就職



ご退職

贈る言葉

近森病院 病理診断科 **円山 英昭** 部長に向けて 在職 2006.4.1～2023.12.31

えんざん ひであき



ありがとう円山先生

近森病院 循環器内科 部長 **浜重 直久**
はましげ なおひさ

扇の要である病理部門で

永年にわたって近森病院の診療を支えていただいた病理診断科の円山英昭先生が2023年末をもって退職されることになりました。

先生は、1995年に高知医科大学病理学教室の教授に就任され、2003年からは高知大学医学部長も併任されました。2006年の退官後に、「発展途上の近森病院を扇の要である病理部門で支えてほしい」という近森理事長の要請に応じて当院に来ていただきました。

育成と発展に多大な貢献を

年々増加する各種の細胞診や、内視鏡による生検診断、外科的

切除標本の病理組織診断などを、多くの臨床検査技師さんを育てながら対応していただき、内科系、外科系各科の発展に多大な貢献をしてられました。

また病理解剖にも力を注いでいただき、毎年10例以上の剖検、臨床と病理の検討会(CPC)、CPCレポート集の作成、解剖慰霊祭などを通して、病気の理解を深めるとともに、若い先生達に患者さんに対する真摯な姿勢を身をもって教えていただきました。

さらに学生や研修医の実習も多数引き受けていただき、おかげ様で中嶋絢子先生、坂西誠秀先生、和田倫子先生など、病理診断科の後継者も立派に育ってきています。



円山先生(左)と

ここ数年は、体調が万全でない中、無理を言って勤務の継続をお願いしてきました。これからは後顧の憂いなく療養に専念していただきながら、時々顔を出してみんなに声をかけていただければと思います。永い間本当にありがとうございました。

◀ 12月27日、合同運営会議にて



画像診断部

竹内 実 副技師長に
たけうち まこと 向けて

在職 1992.4.1～2023.12.31

竹内さんの丁寧な仕事ぶりは、職場のみんなが知っています。今までありがとう。転職先でもきっと活躍されることでしょう。頑張ってください。

画像診断部 一同





リレーエッセイ

私の趣味

近森病院 6階B病棟 看護師
西森 飛翔 にしもり あすか



私は小さいころから自然が好きでした。生き物と触れ合うことや、植物などいろいろなことに興味がありました。小学校低学年のころから父に連れられ山で狩猟を見てきました。初めは動物に触れたいという気持ちでしたが、動物の命を奪うという場面もあり、かなりショッキングであったことを今でも覚えています。

それでも自分で狩りをし食べるということに魅力を感じ、18歳のころに狩猟免許を取得し、20歳で猟銃免許を取得しました。今では地元の猟友会へ所属し活動もしています。動物の命を奪うため、お肉として捌き、調理し、おいしくいただくまでが狩猟だと思っています。休みの日や、夜勤明けにも罫の見回りなどしているため体力的にはきついですが獲物がとれた時の喜びにはかないません。

もう一つ、私は小さいころから木や植物を育成することが好きでした。植物の生命力や、成長は素晴らしいと感じます。盆栽や幅広い植物を家で育成し、水やりをする毎日だけで楽しいです。

狩猟や植物に興味のある方一緒にお話ししましょう。



私の趣味

「暑かったけどヨウ、短かったよナァ、夏。」

総務部 総務課 田村 達彦 たむら たつひこ

社会人になってからの趣味といえばサザンオールスターズのライブに行くことです。

きっかけは9年ほど前に、矢島秀次さん(前々職の上司)から愛媛県武道館でのライブに誘われたことでした。ライブの雰囲気、演奏も素晴らしかったのですが、サザン初心者も飽きさせない、楽しませる工夫が凝らされていてあつという間に時間は過ぎ、ライブ後にはすっかりサザンファンになっていました。

昨年はサザンファンの聖地である茅ヶ崎公園野球場での45周年ライブに行くことができました。夕日を浴びての「C調言葉に御用心」から始まり、「みんなのうた」での客席への放水、ラストは「勝手に



筆者:左端

シンドバッド」で大盛り上がりで大満足の内容でした。また、4年ぶりの声出し解禁ということで、夏に戻ったかのような熱気を感じました。

今後もサザンを通じてできた仲間と、ライブや呑み会を楽しめたらいいと思います。

FREE

私の○○

まるまる

〇〇にフリーワードを入れて
語っていただきました

私の「ランニング」

近森リハビリテーション病院 4階病棟西 理学療法士
松本 治平 まつもと じへい

みなさん「ベアフット・ランニング」をご存じですか？

簡単に言えば、ランニング中の足の着地を踵で行わず、足の指付近や前方で着地を行う走り方を言います。私は、ベアフット・ランニング愛好者です。

究極は裸足になりますが、実践するのはなかなか難しいため、ベアフット系のシューズを愛用しています。中でもお気に入りにはサンダルです。特徴は、つま先と踵の高低差がなく、厚さは5～10mmと非常に薄いソール構造になります。この構造が地面との距離を近くし、大地をよりダイレクトに感じることができます。私は、この素足



感覚で走る抜群の開放感がクセになり、10年ぐらい、普段のランニングはほぼサンダルを履いて、気持ちよく走れるようフォームを意識しながら走っています。過去2回ほどサンダルでのフルマラソンにも挑戦しました。

慣れるまでいろいろな洗礼を受けますと思いますが、みなさんも是非お試しください。



近森病院 開設記念のお祝い

2023年12月24日

24日が日曜日のため、前後の4営業日(21、22、25、26日)に、近森会で働くスタッフ、関係業者の皆様へお鮎をプレゼント!



計2,184食
プレゼント!



クリスマス会開催報告 2023年12月19日

近森病院附属看護学校 1年生 矢野 壹路 等の いろいろ

12月19日、新型コロナウイルス感染症が流行する前と同じ規模のクリスマス会を開催することができました。

「近森ジングルベル みんなに笑顔をプレゼント」をコンセプトにし、参加者みんなが笑顔になれるよう工夫しました。寿司、ケーキ、教職員の方々が作ってくださったシチューをいただきながら景品の当たるゲームをし、みんなが笑顔になっていたと思います。今回開催できたことで、学校生活も活気づいて良かったです。

また、初めて学生自治会の1年生が中心となって企画し開催することができ、来年以降の学園祭等の学校行事の運営につなぐことができたと思います。



編集室通信

黒冬。黒は冬の色。新暦では11月7日から翌年2月3日まで。道元は「冬雪さえて冷しかりけり」と詠みました。かじかむほど寒い冬空を舞う雪、身が縮んでしまいそうなくらい吹きつける寒風。そして温かい鍋物や旬の魚介類を寒い夜に食べるうれしさ、楽しさ。まったく異なるふたつの要素を味わえるのが、冬の楽しみです。

ratty

診療数

令和5年12月

— 電子カルテ管理課 —

● 近森会グループ

外来患者数 16,658人
新入院患者数 1,076人
退院患者数 1,141人

● 近森病院(急性期)

平均在院日数 11.57日
地域医療支援病院 紹介率 106.05%
地域医療支援病院 逆紹介率 341.92%
救急車搬入件数 636件
うち入院件数 363件
手術件数 605件
うち手術室実施 359件
うち全身麻酔件数 260件

看護学校通信

尾崎 綾乃

Ayano Osaki

臨床検査部 主任
臨床検査技師／細胞検査士
認定病理検査技師
消化器内視鏡技師

聞き手／ひろっぱ編集部



みんなと一緒に
成長できる環境に
感謝

「うちの部署は、好奇心旺盛なメンバーが揃っています。それぞれ強みがあって、美容や貯蓄、イベントなど仕事同様に教えてもらったり教えたりしながら、みんなで成長しようという雰囲気があります」と楽しそうに話す、病理検査室の尾崎主任にスポットを当てた。

早い段階で病気を見つけたい

臨床検査技師という職業を知ったのは高校1年生の時。所属していた化学部の顧問が悪性リンパ腫で急逝。悲しみの中、先輩が病気発見に貢献できる臨床検査技師という仕事があることを見つけ、その道に進学。尾崎さんも後を追った。

短大卒業後、高知大学に就職するが妊娠を機に退職。その後1歳となった長女と一緒に近森ファミリーとなった（娘さんはそとに入園）。「産休中から細胞検査士の勉強をしていて、面接でも細胞検査士になると言った手前、必死でしたね。そとが、娘を遅くまで預かってくれたので、勤務後も病院で勉強できたし、家族の協力も得て、みんなに助けてもらいながら頑張りました」と懐かしむ。その後も、技師に関する資格を複数取得しており、かなり努力家と見受けられる。

「細胞はすぐに『癌細胞だよ』という顔をしてくれないこともあります。異型寄りだけでははっきり判別できない場合も、医師に相談しやすいです。この雰囲気は近森病院ならではと思っています。細胞検査士として臨床現場に行くと迅速細胞診をしていますが、これは患者さんの負担も減りますし、先生の

ほっとした顔が直接見られるので、さらにやりがいにつながります」。

去年は2回、『病理技師のタスクシフト～内視鏡検査業務との連携～』という表題で学会発表も経験。自分たちが先駆的なことをしているのを誇らしく感じたそう。

長女は善き相談相手

家族構成は、夫、二女（中1と小1）、実母と実弟の6人家族。「中1の娘のお弁当は母が作ってくれて、かなり“楽ちゃんママ”なんです」とニコニコ。その分、子どもとの時間や自身の勉強時間に費やせるようだ。

「休日は、基本子どもの習い事の送迎ですね。合間をぬって、今年の夏は娘が参加したよさこい祭りのサポートや、家族で野外ライブ（モンスターバッシュ）にも行って娘と盛り上がりました。あと先日は夫が出場したティラノレースの応援も…」という仲良しアクティブ家族。というのも、小学校のバスケのコー



チから「子どもには、たくさんの体験が必要だ」と助言され実践しているのだそう。

「長女はしっかり者なんです。お風呂に入って悩み事を言い合って、一緒に泣いて一緒に笑っています」と、長女へ全幅の信頼を置く。もちろん次女とも仲良し。「今朝も5時に起こされ一緒にゲームをしていました」と、同じ目線に立ちながら、おおらかに子育てを楽しまれているようだ。

ただいまお金の勉強中

病理検査室で最近話題になっているのがお金の勉強。「子どもの教育や老後のために、iDeCoをしたり、ポイントを集めたりしています」と楽しそう。近森の福利厚生の一つである「RELO CLUB」も、クーポンを使ったりマネーに関するオンライン講座を受講したり有効活用しているようだ。「便利です。先日もクーポンを使ってラーメン店で110円得しました。利用しないともったいない!」と太鼓判を押す。「難しいと思っていた金融も分かってくるとおもしろいですね」。どうやらファイナンシャルプランナーの資格も狙っているようだ。

お話を伺って、話題のお金の勉強だけでなく、子育ても、当然仕事においても、良きアドバイスをいただくと、まず実践する素直で合理的な姿が見えた。目標を資格合格など目に見える事に置き換えて進めていくらしく、新しい資格取得や技術向上に努める。「みんなで教え合って磨き合って向上していきたいんです」と。こういう前向きな人の集まりが、近森病院の発展につながっているのだと思った。

